

CEFR をめぐる EU の最新動向や ルーマニアの主要大学における CEFR とその導入状況

1. CEFR をめぐる EU の最新動向—その現況とは

根岸氏の論文によれば、本来の CEFR の目的は一つの枠組みとして使うこと、でありながら学習者自身への自己評価ツールとしての役割も大きい。

ヨーロッパ域内では、小国のベルギーやオランダでは、ドイツ等の大国と比べ、まだ CEFR の津使用状況や環境に差が見られる。

2. ルーマニアの主要大学における CEFR とその導入状況

2.1 ブカレスト大学 (University of Bucharest)

CEFR の導入は確でないが、ルーマニア国内の国立大学や外国語大学英語文学科及び通信科学大学の活躍により世界大学ランキング順 200 位を遂げ、外国語学習が盛んだと評価されている。また、特設の社会研究科でフランス語の学習ならびに言語及び文化アイデンティティ研究科が存在し、様々な外国語に関する研究活動が先進的である。

2.2 バベシュ・ボヨイ大学 (Babes-Bolyai University)

バベシュ・ボヨイ大学はトランシルバニア地方の代表的な大学として、多言語的な環境を誇り CEFR の導入に取り組みは始めている。また、日本語を含めアジア諸言語の学習も進んでいる一方、ハンガリー語やユダヤ語といった現地語に関する研究が多く、地方的な色合いを出している（たとえば、ルーマニアイタリア合同歴史研究所、教会史、古代中世研究、現象学応用研究、応用哲学、博学文学研究、近代英文学、フランス語ベルギー文学研究、カナダケベック研究、現代フランス小説研究、ロマンス言語学談話分析、アンリー・ジャキエー記念学際的研究所、言語産業情報処理研究、ファンタスマ仮想世界研究所、クリザ・ヤノシュ記念民族学協会、ブラドゥ・ムーグル記念演劇研究所、インテルクルトゥラリテー研究所、オリエンタリア研究所、ギリシャ正教研究、多文化間研究などがあり、多文化間教育が盛んである）。

英語やフランス語多数のジョイント・プログラムが存在し、CEFR の導入に関して積極的な姿勢を示しているため、将来的に導入が近いと思われる。これに関して、複数の研究も発表されている。

参考文献

<http://www.arcle.jp/report/2009/0002.html>